

令和2年度  
岩内あけぼの学園

# 事業報告書

社会福祉法人あけぼの福祉会

# 目 次

I. 利用者の状況	P3
1. 入退所状況	P3
①岩内あけぼの学園(施設入所支援)	P3
②岩内あけぼの学園(通所・生活介護)	P3
2. 居室と担当職員の状況	P4～5
II. 職員の状況	P5
III. 見学・実習生の受入状況	P5
IV. 研修の状況	P6
1. 職場外研修の状況	P6
2. 職場内研修の状況	P6
V. 年間行事の実施状況	P7
VI. 生活支援の状況	P7
1. 各種スポーツ大会等の状況	P7
2. 社会生活活動の実施状況	P7
3. サークルとコンサート鑑賞の実施状況	P8
4. 避難訓練の実施状況	P8
5. 建物や設備の整備について	P8
6. 生活棟(別棟)えみしあの運用について	P8
7. 通院や入院への対応について	P8
8. 新型コロナウイルス感染症への対応について	P8～9
9. リハビリ支援について	P9
10. 行事の実施について	P9
11. 学校との連携と将来的な人材確保について	P9
12. 広域避難訓練の実施について	P9
13. グループホーム ラフォーレの支援について	P9
14. 在宅(通所)利用者の支援について	P9～10
15. 記録管理システムについて	P10
16. 障がい者虐待防止法について	P10
17. 利用料収入と支援スタッフの確保について	P10
VII. 食事提供業務の状況	P10
VIII. 健康管理の実施状況	P11
1. 日常生活における予防及び衛生	P11
2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防	P11
3. 日常の健康管理	P11
4. 健康診断の実施と各種検診の受診	P12
5. 感染症罹患者への対応について	P12
IX. 苦情解決について	P12
X. 日中活動支援の状況	P12
1. 活動グループの状況	P12～13
2. 各活動グループの活動状況	P13
① 生活介護Ⅰグループ	P13
② 生活介護Ⅱグループ	P13～14
③ 生活介護Ⅲグループ	P14
④ 生活介護Ⅳグループ	P14～15
⑤ 生活介護Ⅴグループ	P15

# I. 利用者の状況について

## 1. 入退所状況

### ①. 岩内あけぼの学園、施設入所支援利用者動向

月	現員	施設入所支援状況		異動の状況
		入所	退所	
4	51	1		SYさん(入所)
5	51			
6	51			
7	51			
8	51			
9	51			
10	51	1	1	FMさん(入所)、TMさん(退所)
11	51			
12	51			
1	51			
2	51			
3	51			
合計	612	2	1	

### ②. 岩内あけぼの学園、(通所)生活介護利用者動向

月	現員	通所利用状況		異動の状況
		通所	退所	
4	10		1	SYさん(施設入所に伴い退所)
5	10			
6	9		1	AKさん(退所)
7	9			
8	9			
9	9			
10	9			
11	9			
12	9			
1	9			
2	9			
3	9			
合計	110	0	2	

2. 居室と担当職員の状況(令和3年3月31日現在)

① 施設入所支援サービス利用者

利用者名 (男性)	担当職員		利用者名 (女性)	担当職員	
	担当	副担当		担 当	副担当
NTさん	OK	KM	WAさん	SM	IT
IGさん	OK	ZK	HEさん	SM	IT
TTさん	HS	FS	TKさん	SM	ET
IHさん	HS	IT	SYさん	SM	KT
YTさん	HS	NS	IRさん	FM	KM
MMさん	MT	FS	YHさん	FM	IT
SHさん	MT	TY	SMさん	FM	KM
MMさん	MT	TD	SSさん	FM	HM
MSさん	NS	MY	WHさん	KM	TK
YMさん	NS	ZK	EHさん	KM	KN
NRさん	NS	OK	ORさん	KM	FI
ASさん	KM	IK	TYさん	MA	FI
TTさん	KM	OK	ATさん	MA	HM
TMさん	KM	TD	NYさん	MA	KM
KYさん	TD	HS	OTさん	MA	HM
KKさん	TD	IT	FMさん	MA	KT
TTさん	TD	MT	HHさん	NK	MH
IKさん	MY	MT	TKさん	NK	KM
TKさん	MY	NS	KKさん	NK	TK
WTさん	MY	MT	IHさん	NK	KN
UKさん	ZK	MY	NHさん	AM	KM
KHさん	ZK	HS	MTさん	AM	MH
OSさん	FS	ZK	KYさん	AM	KN
IZさん	FS	KM	YTさん	AM	TK
SKさん	FS	IK	KSさん	NN	FI
			KKさん	NN	ET

②通所部 (在宅日中活動サービス利用)

利用者名	担当窓口	副担当	利用者名	担当窓口	副担当
SKさん	OK	TY	NKさん	FI	KN
TKさん	NS	KM	DHさん	IT	MH
KKさん	MY	TD	ATさん	KM	ET
HYさん	KM	ZK			
MHさん	TD	HS			
KTさん	FS	OK			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

<利用区分>

	施設入所支援	合 計	備 考
施設入所支援 利用者	男性 25名 (24名) 女性 26名 (26名)	51名(50名)	・カッコ内は定員
在宅(通所)利用者	男性 6名 女性 3名	9名	

II. 職員の状況について

月	職員動向		異動の状況
	採用・異動	退職	
4	5		OM、IT(異動) MR、ET、YS(採用)
5			
6			
7		1	NS(退職)
8			
9		1	ET(退職)
10	1		OY(託児所と兼務)
11			
12			
1	1		SA(採用)
2	1		TS(採用)
3		1	FS(退職)
合計	8	3	

III. 見学・実習生の受入状況

月	日	見学・実習生名
8	8/5~8/12	経専北海道保育専門学校実習生受け入れ(2名)
〃	8/17~8/22	経専北海道保育専門学校実習生受け入れ(1名)
9	9/14~9/25	経専北海道保育専門学校実習生受け入れ(3名)
8	11/11~11/12	岩内高校インターンシップ事業(4名)

## IV. 研修の状況

### 1. 職場外研修の実施状況

月	日	研修名	開催地	派遣職員
4	9	令和2年度 後志知的障がい福祉協会定期総会	小樽市	園長、FM
7	10	令和2年度 後志知的障がい福祉協会 役員会	余市町	園長
	20	新型コロナウイルス感染症の 感染拡大防止に係る研修会	倶知安町	SR
	21、22	令和2年度 原子力防災基礎研修	倶知安町	KM、TD
8	6	入所施設向け新型コロナウイルス感染症対策研修会	岩内町	SR
	22～23	強度行動障がい支援者養成研修 基礎課程	オンライン	MN
	28	令和2年度 第1回運営研究委員会	仁木町	園長
9	1	放射線防護施設担当者研修会	共和町	KM、TD
	18	令和2年度第1回岩内町福祉・介護・医療・教育 関係機関原子力防災連絡会	岩内町	園長
	26～27	強度行動障がい支援者養成研修 基礎課程	オンライン	MH、IT
10	2	第1回 危機管理対策委員会	札幌市	園長
	3	教師と支援者・保護者のための特別公開講座	札幌市	MK、MA、TD
	22	令和2年度 広報講習会	オンライン	KY
	24～25	強度行動障がい支援者養成研修 基礎課程	オンライン	SM、MR
	30	安全運転管理者講習会	岩内町	MK
11	11	令和2年度北海道・東北ブロック社会福祉法人 経営青年会オンラインセミナー	オンライン	SM、SR、 OE
	11	仕事を上手に進める“報連相”オンラインセミナー	オンライン	NK、ZK
	17～23	同一労働同一賃金の理解と具体的な対応について	オンライン	SM
1	12	障害福祉サービス施設・事業所職員のための 感染症対策オンライン研修	オンライン	SM、SR、 OE、OK、 KY
	19	令和2年度北海道サービス管理責任者 更新研修	オンライン	MK
	26	令和2年度 権利擁護セミナー	オンライン	MH、MR
	18	令和2年度 第2回 運営研究委員会	オンライン	園長
3	2	令和2年度北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	オンライン	MT
	23～29	経理担当者研修	オンライン	TM、MA、YS

### 2. 職場内研修の実施状況

月 日	テーマ	講師	参加人員
8/5	自閉症支援(事例報告)	MA 主任、TD 副主任	29名
11/4	(株)3eee合同研修会	(株)3eee 代表 田中紀雄氏、園長	22名
1/29	感染症対策講座(防護服着用シュミレーション)	看護師	23名
			合計 74名

## V. 年間行事の実施状況

月	日	行事名	月	日	行事名
4	1 28	開園記念日 ランチ会	10	27 29	はばたけ会行事(ハロウィン) ランチ会
5	28	バーベキュー	11	26	ランチ会
6	17 24	ホースビレッジ来園 ランチ会	12	14 17	クレーブ移動販売 クリスマス会
7	7 30	縁日祭 ランチ会	1	27	新年会
8	22 27	デコトラ鑑賞会 ランチ会	2	2 12 25	節分行事 バレンタイン行事 ランチ会
9	24 28	バーベキュー 岩内高校吹奏楽局演奏会	3	3 25	ひな祭り ランチ会

## VI. 生活支援の実施状況

### 1. 各種スポーツ大会等の状況

月 日	大会名	参加利用者、結果	参加利用者数
7/11	チャレンジ西後志親の会 ぶどうの会 パークゴルフ	SHさん、MMさん TYさん、KKさん、NYさん	5名

### 2. 社会生活活動について

・今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、昼食を伴わない買い物の実施や外出中止といった感染リスクを回避しながらの対応となった。

また、冬期間はコンビニエンスストアの訪問販売を利用して園内で買い物が行えるように支援した。今後も感染状況に応じた外出を行うこととする。

・利用者の方が活動に参加した際に、記録管理システム(クレヨン)へ確実に記録する事で、個別の参加状況を細かく把握できる様に取り組んだ。

### 3. サークル・コンサート鑑賞の実施状況

サークル・コンサート名	実施場所	実施日時	利用者登録	年間実施回数
ハンドメイドサークル	施設内	月2～3回程度	5～6名	25回

### 4. 避難訓練の実施状況

月 日	訓練の種類	訓練の内容	利用者参加人数	年間実施回数
6/23	自主訓練	通報訓練・避難訓練	51名	4回
11/24	自主訓練	通報訓練・避難訓練・消化訓練	52名	
1/20	自主訓練	土砂災害を想定した避難訓練	59名	
3/12	自主訓練	地震災害を想定した避難訓練	56名	

### 5. 建物や設備の整備について

- ア.平成17年度に増築した男女 B 棟Dルーム及び廊下のタイルカーペットの劣化に伴い、クッションフロアへの張替え工事が6月4日に終了した。
- イ.食堂用個別昇降テーブル(4人用)1台を5月27日に納品した。
- ウ.男女利用者玄関のスロープ工事が終了した。
- エ.清水基金の助成を受け、自閉症者活動棟の増築工事が7月31日に終了した。
- オ.敷地内車庫前の舗装工事を9月1日に終了した。
- カ.中庭に職員による手作りのウッドデッキと足湯を11月28日に設置した。
- キ.男子A棟居室2部屋をクッション材入りのフローリングへ改修、手すりを設置した。
- ク. ヒートショックを防ぐ為、男女浴室の脱衣場に壁掛けヒーターを設置した。

### 6. 生活棟(別棟)えみしあの運用について

生活棟(別棟)えみしあで若干利用者の方の入れ替えを行う中で高齢者に限らず、個々の特性に応じた利用者が生活できる環境とした。今後も利用者の方が落ち着いて生活できるように支援する。

### 7. 通院や入院への対応について

今年度は男女合わせて11名の利用者の方が医療的治療が必要で入院となった。更に、入院治療を継続していたが、容態が急変し逝去された方が1名となり、ご家族共々辛い時間を過ごすこととなった。

突然の体調不良により救急車を呼ぶケースや治療が必要で入院に至るケースが増えてきており、町内の医療機関に受診した際、診断によっては小樽市や札幌市の医療機関へ再受診または治療が継続的に必要となるケースもあった。

今後も通院や入院に至るケースについて、学園とご家族とで連携を図りながら慎重に進めていく。

### 8. 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症の全国的な蔓延に伴い、国や道から感染症予防対策の徹底を図るよう通知があったことから、法人の対応に基づき、あけぼの学園においても体調管理の徹底、不要不急の外出や第三者による施設への立ち入りを控える等の対応を行った。

また、ご家族にはご理解・ご協力を頂きながら、感染者が発生した小樽・札幌方面への帰省や面会等の制限及び中止をお願いした。

あけぼの学園では、感染症の発生に備え、衛生用品の確保、マニュアル等の整備、職員による防護服着用の実践研修を行うことで、緊急時に対応できる体制とした。更に、1月と3月に全職員を対象にPCR



検査を実施し、全員陰性を確認した。職員についてはサージカルマスク着用を徹底した中での支援とし、職員自身も体調管理や行動履歴を含め注意喚起を行った。

コロナワクチンの接種について、学園は高齢者や基礎疾患を有する利用者の方が混在して生活をされており、高リスクを伴うことから本人及びご家族の同意のもと接種することとなった。今後もコロナワクチンの接種状況に応じて外出や帰省等を検討することとし、引き続きご家族のご理解・ご協力を頂きながら感染症対策に努めていく。

#### 9. リハビリ支援について

医師の指示の下、リハビリが必要であると診断を受けた利用者の方を対象に、作業療法士が中心となりリハビリを実践している。個々に合わせたプログラムを作業療法士が組み立て、支援ワーカーや看護師が連携して機能訓練を行った。今後も利用者個々の身体機能や生活状況を把握しながら専門的な支援を継続して行う。

#### 10. 行事の実施について

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、日帰り旅行を中止とした。その他、岩内神社祭も中止となり、外出の制限や帰省が中止となったことから、利用者の方が園内で楽しめる行事を以下の通り企画した。

感染予防対策が優先される中、利用者の方が楽しく日々を過ごせるよう、職員が連携し様々な行事を企画したことで、利用者の皆さんに楽しんで頂くことが出来た。

- ・6月ホースピレッジ来園(馬2頭への餌やりや乗馬体験)
- ・7月縁日祭(多目的ホールで簡単なゲームや中庭に数種類の出店をした)
- ・8月デコレーショントラック鑑賞会(トラック鑑賞、写真撮影、かき氷)
- ・9月岩内高校吹奏楽局演奏会
- ・12月クレープ移動販売

#### 11. 学校との連携と将来的な人材確保について

毎年行っている町内の小学生と利用者の方との交流会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い中止となった。しかし、岩内高校のインターンシップ事業は4名の生徒さんを受け入れ、福祉の仕事について体験してもらった。また、可能な範囲で経専北海道保育専門学校の実習生も受け入れを行った。

10月に岩内第二中学校を訪問し、障がい交流事業について協議を行い次年度から新たに交流事業を開始することとした。今後も地域との交流やPR活動を行いながら、将来的な人材確保に努めていく。

#### 12. 広域避難訓練の実施について

原子力災害における原子力防災訓練を令和2年10月31日に実施した。今回は通信訓練と倶知安町後志総合振興局へ退域時検査と安定ヨウ素剤配布訓練の為、利用者9名、職員7名がバスに同乗した避難訓練を実施した。次年度も引き続き訓練を行い、有事の際に備えることとする。

#### 13. グループホーム ラフォーレの支援について

生活拠点であるグループホームと情報を共有し出来る限りのバックアップを行った。今後もグループホームと連携を図りながら、利用者の方が落ち着いて生活することができるよう支援する。

#### 14. 在宅(通所)利用者の支援について

新型コロナウイルス感染症蔓延拡大に伴い、法人の対応に沿って自宅での検温、発熱時は通所不可、マスクの着用、小樽・札幌方面へ外出される場合は事前に施設へ連絡等、ご家族へ協力依頼の文書を

発送した。

また、通所利用者の過ごす場所(敷地内の創作棟)と入所利用者の過ごす場所を分けることで、感染予防対策を徹底した。活動内容は、散歩や日中活動の他、月1回おやつ作りを行い、活動場所が変わっても楽しく過ごす事ができるよう配慮した。今後ご家族と連携を図りながら、感染状況に合わせて対応を行う。

#### 15. 記録管理システムについて

記録管理システムを活用し、利用者の方の日常の生活状況をきめ細かく把握し記録することを徹底し、そのデータを健康管理や個別ケース等の支援に活用した。

また、蓄積されたデータを活用しモニタリングやアセスメント(評価)を行ない、利用者の方の個別支援計画(ケアプラン)を策定した。

#### 16. 障がい者虐待防止法について

障がい者虐待防止法を順守し、施設内における虐待防止委員会を毎月開催した。また、虐待防止に関わるオンライン研修への参加を行なった。更に、職員は支援項目を確認するチェックシートの実施、利用者の方については利用者自治会(はばたけ会)を通して虐待についての説明を行った。

#### 17. 利用料収入と支援スタッフの確保について

国や利用者から支払われる一般的な支援費のほか、重度障がい者支援加算や人員配置体制加算などを活用し、施設の収入財源を確保したうえで、国が定める一定の配置基準以上(今年度実績は利用者1.7名に対して支援スタッフ1名以上)の支援スタッフにより、利用者に対する日々の支援サービスを提供することが出来た。

夜間はあけぼの学園本体に職員3名、生活棟別棟(えみしあ)にも夜勤職員1名を配置し、夜間専門職員と日中支援職員とで協力して支援にあたった。

## VII. 食事提供業務の状況

### 1. 新型コロナウイルス感染症に配慮した食事提供

新型コロナウイルス感染症対策として、男女で食事場所を分け、時間をずらすことで密を避ける対応とした。

### 2. 選択食、希望食の実施

複数の料理からその場で好きなほうを選択する献立、メニューブックを参考にして自分の食べたい料理を自由にリクエストし、それを献立に反映させた。更に、毎月実施するはばたけ会(利用者自治会)の中で利用者の方からの要望を聞き、行事食等に反映させた。また、えみしあで生活をされている利用者の方と通所利用者の方を対象におやつ作りを行い、喫食を楽しんだ。

### 3. 行事食、野外での食事会の実施

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、毎月のランチ会、開園記念日、新年会などの行事食のほか、野外での食事会(炭火でのバーベキュー)を行った。

### 4. 特別食、エネルギー制限食の提供

腎臓疾患、糖尿病の利用者の方への特別食の提供、咀嚼、嚥下機能が困難である利用者の方への数種類に分けた刻み食の提供など、利用者の方の健康状態、嚥下機能に合わせた食事の提供を行なった。

また、個人の年齢、体型、運動量、代謝量などを考え、通常の 1.800kcal の食事のほか、若年層男女の 2.000kcal、さらに 1.600kcal、1.460kcal の食事提供区分を設定し、利用者の方の健康に配慮した。

## VIII. 健康管理の実施状況

### 1. 日常生活における予防及び衛生

- ①生活習慣、感染症対策として、うがい、手洗い及び手指消毒、外出時はマスク着用を行った。  
また、感染症対策から洗面所や出入り口にはアルコール消毒液を常設、手拭きタオル、エアージェットの使用を中止し紙ペーパーを使用した。
- ②入浴時は全身の怪我や皮膚の状態を観察し、異常があれば看護師へ報告し迅速に対応するよう努めた。

### 2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防

- ①感染症予防対策として、トイレの消毒、全館の消毒を毎日実施した。
- ②ハセツパー水(除菌・消臭効果のある微酸性次亜塩素酸水)に対応した噴霧器を男女各棟、えみしあのDルームに設置することで感染症の予防に努め、併せて加湿器も設置し温度及び湿度の調整に心掛けた。
- ③アルコール消毒液を各棟、玄関に設置し、手指消毒に努めた。
- ④可能な限り密を避け、定期的な換気を行った。

### 3. 日常の健康管理

- ①検温を毎朝、昼の1日2回測定、異常のあるときは通院を行い、軽易の症状であれば常備薬で対応した。  
また、新型コロナウイルス感染症の対応で、37.5℃以上の発熱があった際は、対応マニュアルに沿って迅速に対応し、病院へ受診、PCR検査を実施した。また状況については、看護記録に記載するとともに記録システム(クレヨン)に詳細な記録をとった。
- ②全利用者さんを対象に月2回体重測定を行った。また、体重の推移を細かくチェックする必要がある利用者の方については、毎週体重測定を行った。
- ③50歳以上の方と高血圧、循環器症状のある方については、毎日血圧測定と血中酸素濃度を測定し、50歳以下の方に対しては、週1回血圧測定を実施した。数値が安定しない利用者の方に対しては通院を行い、状況や様子については健康管理委員会や各ケース会議で協議した。また、肥満防止、機能維持のために、食事量の検討、散歩、リハビリや体操などを行った。
- ④嚥下困難な利用者の方に対して「健口体操」を継続して行った。更に嚥下機能の低下が顕著となった利用者の方については、看護師、栄養士、作業療法士、支援ワーカーが観察、評価を行うことで、食事形態や支援内容の見直しを図った。
- ⑤男女各棟やえみしあを巡回し、利用者の方の健康状態をチェックした。
- ⑥インフルエンザの予防接種を行った。
- ⑦新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修への参加や厚生労働省からの通知等で情報収集を行い、支援ワーカーへ感染症対策における防護服着用の実演を全職員へ行った。  
札幌圏への通院においても感染状況に応じて病院側と協議し、日程を調整・延期するなどの対応を行った。  
2月に岩内保健所の担当者が来園し、学園の新型コロナウイルス感染症への対応についての確認と助言を頂いており、保健所の依頼で、重症化リスクが伴う可能性がある利用者の方のご家族へ連絡し、医療行為における処置等について可能な範囲で確認をとった。更に、職員や利用者に注意喚起を促すと共に衛生用品等の備蓄管理を行なった。

#### 4. 健康診断の実施と各種検診の受診

- ①施設で実施する年2回の健康診断の他、岩内町で実施する各種検診(胃癌、乳癌、婦人科検診)を受診し、早期発見に努めた。また、身元引受人の了解を頂き、血液検査による癌検診(血液マーカー検査)、便採取による大腸がん検診を実施した。
- ②町内の歯科医院で治療が可能な利用者の方については町内で治療を行ったが、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、今年度は北海道大学歯学部への通院を中止した。

#### 5. 感染症罹患者への対応について

毎年心配されているインフルエンザであるが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底したことで、感染者がおらず蔓延することはなかった。

### IX. 苦情解決について

今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、苦情解決委員会は開催せず、7月に文書にて内容を報告させて頂いた。身元引受人も含めた苦情と要望が5件あった。

また、朝の朝礼や毎月行なう利用者自治会の会議の中で、利用者の方から何点か要望が聞かれ、軽微な要望であった為、これについてはその都度解決した。

### X. 日中活動支援の状況

日中活動区分	生活介護(入所)	生活介護(通所)	生活介護(合計)	サンライズ(通所)
人数	50名	9名	59名	1名

#### 1. 日中活動グループの状況について(令和3年3月31日現在) ※○印は活動グループ運営責任者

活動グループ名	令和2年度日中活動編成				在籍数	運営責任者
	利用者名					
生活介護	生活介護 I (いきいき)	IZ さん	SK さん	TK さん	8名	○KM AM
		TK さん	MT さん	YT さん		
		OR さん	SY さん			
	生活介護 II (のびのび)	NR さん	KY さん	TM さん	13名	○HS MT SM
		NT さん	KK さん	KK さん		
		OT さん	KS さん	NH さん		
		YH さん	SS さん	FM さん		
		AT さん				
	生活介護 III (創作活動)	MS さん	YT さん	IK さん	16名	○FM MY
		TT さん	SH さん	TT さん		
		WT さん	TK さん	HE さん		
		WH さん	KK さん	WA さん		

		TY さん	EH さん	NY さん		
		DH さん				
生活介護 Ⅳ (個別支援)		KH さん	TT さん	AS さん	11 名	○MA NK TD ZK
		IH さん	IG さん	OS さん		
		SK さん	KT さん	HH さん		
		KK さん	SM さん			
生活介護 Ⅴ (しいたけ)		MM さん	MM さん	YM さん	11 名	○NS FS NN
		UK さん	MH さん	HY さん		
		AT さん	IR さん	IH さん		
		KY さん	NK さん			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

## 2. 各グループの活動状況について

### 1. 生活介護Ⅰ(いきいき)グループ

#### ○目標(重点目標)

- ・楽しんで活動に参加出来るよう、個々に応じた個別課題を設定する。
- ・健康面に配慮しながら身体機能維持に向けたリハビリテーションを提供し、健康維持に努める。また、心身のリフレッシュが図れるよう、定期的に散歩やレクリエーションを取り入れる。

#### ○どの様な取り組みを行うか

- ①利用者の方が好む活動を提供する。
- ②検温と血圧を測定してから活動に参加し、利用者の方の健康状態に留意した上で活動内容を提供する。
- ③個別にリハビリテーションを提供し、無理のない範囲で屋内外での散歩など身体機能維持に努める。
- ④ドライブやレクリエーションを行うことで、活動への意欲向上と心身のリフレッシュに繋げる。

#### ○後期の取り組みに対する評価

- ①個別課題として、洗濯バサミや醤油キャップを使用した指先の運動の他、パズルやビーズ作成、塗り絵など個々の特性に合わせた活動を提供することで、意欲的に取り組むことが出来た。
- ②活動前に検温・血圧・血中酸素濃度を測定し、健康状態等に留意した上で活動に参加することで、大きく体調を崩す利用者の方は見られなかった。
- ③作業療法士と連携し、近距離での散歩や身体機能維持運動を提供しながら、随時内容を見直す事で顕著な健康機能の低下等は見られなかった。また、新たな身体機能維持運動として踏み台昇降を導入した。
- ④レクリエーションとして、町内の飲食店での食事や1時間程度のドライブ等を実施することで、気分転換を図ることが出来た為、今後も計画的に実施する。

### 2. 生活介護Ⅱ(のびのび)グループ

#### ○目標(重点目標)

- ・1人ひとりが楽しみをもって参加出来る様、活動内容を設定し、必要に応じて機能維持やストレスの軽減を図り、落ち着いた生活が送れるよう支援する。

#### ○どの様な取り組みを行うか

- ①心身の機能に併せた活動(個別課題・軽運動・機能維持に向けたリハビリテーション等)を提供する。また、冬期に際し、屋内での活動内容については、作業療法士と協議した上で、機能維持運動や個別課題の更新を行う。その他、利用者の方が楽しめる活動(カラオケや音楽鑑賞等)を提供する。

- ②活動中は利用者の方の心身の健康状態などに留意し活動内容を提供する。また、年齢や体力の低下が見られる方に併せて、活動前にバイタル測定(検温、血圧、血中飽和濃度)を行い、活動内容を調整する。
- ③園内歩行や散歩(積雪時まで)を継続し、機能維持及び気分転換を図る。
- ④定期的にレクリエーションやドライブを提供し、活動への意欲向上及び気持ちのリフレッシュを図る。

○後期の取り組みに対する評価

- ①利用者の方の身体機能に併せて園内での歩行訓練や階段昇降などを行なった。また、機能維持を目的にした指先運動や個別課題、パズルなどを提供することが出来た。活動中はカラオケの音楽を流し、リラックスして取り組めるよう配慮したが、音の刺激に苦手な方もいた為、活動スペースの分けについて、再検討が必要である。
- ②活動前のバイタル測定について、看護師と協議し対象者の見直しを行なった。活動中に体調不良になる方はいなかったが、身体機能の低下により屋外への移動が困難となった数名の方が「のびのび」グループに異動となり、人数が増えたことで、機能維持の活動が十分に提供できなかった。今後の課題として、高齢化や機能低下に伴う支援度が増す中、生活場面と連携しグループ内のメンバーの再編成及び活動内容の見直しが必要である。
- ③アリスの里周辺や森林公園などの屋外運動を積極的に取り入れることが出来た。冬期に至っては、移動のリスクを考慮し、園内での歩行やリハビリテーションを主に行なった。
- ④バスでのドライブやレクリエーション等を行なうことで、参加意欲の向上に繋げることが出来た。また、外出が制限される中、多目的ホール内でテイクアウトしたピザを喫食する等、気分転換を図ることが出来た。

3. 生活介護Ⅲ(創作活動)グループ

○目標(重点目標)

- ・楽しんで活動に参加出来るように個々に応じた創作活動や個別課題を設定する。
- ・散歩や歩行訓練などの身体を動かす活動を取り入れ、身体機能の維持とストレス軽減に努める。また、心身のリフレッシュを図る為、レクリエーションを提供する。

○どの様な取組みを行なうか

- ①個々の能力や興味がある事、季節に応じた創作活動の内容を設定する。また、完成した作品を学園内で展示する事で、活動意欲の向上に繋げる。
- ②散歩や軽運動を取り入れ、健康維持に努める。
- ③レクリエーションを実施する事で、心身のリフレッシュを図る。

○後期の取り組みに対する評価

- ①アクリルたわしの作成や季節に応じた作品の作成、個別課題の提供を行なった。利用者の方が得意とする貼り絵や塗り絵などを中心に創作活動を取り入れ、完成した作品は食堂に展示することで、活動への意欲向上に繋げることが出来た。
- ②秋頃までは散歩など身体を動かす機会を提供したが、冬期は道も滑りやすく危険な為、作品作りや個別課題を中心に活動を提供した。
- ③10月にレクリエーションを行なっており、町内で会食した後にドライブを行なっている。今後においても気分転換を図りながら、利用者の方が楽しく活動に参加できるよう継続的に実施する。

4. 生活介護Ⅳ(個別支援)グループ

○目標(重点目標)

- ・TEACCHプログラムの理念を取り入れた支援を提供しながら見通しの持てる活動を提供する。

○どの様な取組みを行なうか

- ①個別課題を定期的に更新する。
- ②固執の変化に合わせ、生活場面と連携しながら対応方法の検討、実践を行う。

③活動棟の増築に伴い、スケジュールの見直しも行ないながら、個々の活動スペースや休憩スペースの充実を図る。また、園内で行なうレクリエーションを実施し、気持ちの安定に繋げる。

#### ○後期の取り組みに対する評価

①定期的に個別課題を更新する事で、集中して課題に取り組む時間が増えている為、今後においても、一人ひとりの特性に合った課題を更新し、より安定した活動を提供する。

②活動の有無が理解出来ず、落ち着かない利用者の方に対し、視覚的構造化を行うことで、安定して活動に参加することが出来た。また、固執行動の表出時には生活場面と連携し、支援方法を検討や実践、見直しを随時行うことで、大きな混乱もなく対応することが出来た。

③活動棟の増築に伴い、個々の活動スペースと休憩スペースを分けることが出来、明確な活動場所を提示することで、活動内容を含め充実を図る事が出来た。スケジュールについても、設置方法や視覚的構造化等を行い、一人ひとりの特性に合った内容を提示することで、見通しを持ち自発的に活動に参加することが出来た。

2月に活動棟内でレクリエーションを実施し、気分転換を図り気持ちの安定に繋げることが出来た。今後は個々の特性に合わせたレクリエーションのスケジュールを提示し、より充実したレクリエーション内容を検討する。

### 5. 生活介護V(しいたけ活動)グループ

#### ○目標(重点目標)

・しいたけの品質の安定及び、委託販売店に安定した供給ができるように、計画的な生産量の確保に努める。

・活動メニューを個々の利用者の方に設定し、しいたけの栽培を通して活動に対する意識を養う。また、活動に対する基本的な動作が身に付けられるように支援する。

・軽運動やレクリエーション活動を取り入れ、健康増進と心身のリフレッシュに努める。

#### ○どのような取り組みを行うか

①ビニールハウス内の温度や湿度を発生に適した状態に設定できるように経験者に助言を求めながら、送風機の使用、ほだ木への撒水を計画的に行なう。

②しいたけの栽培に関わる活動(ほだ木の運搬、しいたけ採取やパック詰め補助業務)を分担する事で活動に対する意識を高める。

③休憩室や椎茸ハウス内の清掃を実施する事で活動しやすい環境を整える。

④散歩やレクリエーション活動を行ない気分転換に繋げる。また、冬期においては除雪を行い、健康の増進を図る。

#### ○後期の取り組みに対する評価

①しいたけの発生に適した環境を保つ為、散水の時期や量、ほだ木の水抜き等、経験者や業者のアドバイスの下、取り組みを行なったが十分な生産量の確保までには至らなかった。その為、来年度においても自己研鑽を行ない計画的にしいたけ栽培を行なう。

②一人ひとりの特性や身体機能に合った活動内容を役割分担することで、意欲的に活動へ取り組むことが出来た。

③ハウス内の清掃及び休憩所の清掃について、清掃用具を更新し実施したが、適宜行なう事が出来ず、十分な環境を整えることが出来なかった。

④天候の良い日には散歩や町内の焼肉店でレクリエーションを行ない、気分転換を図ることが出来た。除雪については、降雪量が多く利用者の方に負担が掛からないよう、こまめな休憩や時間を短縮し、ハウス周辺や利用者玄関前の除雪を実施している。